

舊

記

万治祐久三年

一

富山大学

菊池文書

562

菊池

- 一 去年秋雨所多入所給之款去年同前所給之款所費
- 一 冰見申給之利便之款今年所給之款所費
- 一 所給之款所費之事

所給之款

- 一 布市村源内給之款 所給之款所費之事 有一給
- 一 所給之款所費之事 今校民所給之款所費之事

- 一 所給之款所費之事 今校民所給之款所費之事 中給之款所費之事
- 一 所給之款所費之事 今校民所給之款所費之事

一 中烟之概 所莊去身修下百姓以惡受其害故

一 中烟之概 所莊去身所飲百姓其害甚矣奇之也此法事

在官中及改何事付

一 所分國中法德案 中烟之概之修至通也中下之案

年所中事之修後

一 明唐江年所莊去身所飲百姓其害甚矣奇之也此法事

所分中事之修後

一 萬治元年酒造所莊去身所飲百姓其害甚矣奇之也此法事

一 萬治元年酒造所莊去身所飲百姓其害甚矣奇之也此法事

一 大德元年酒造所莊去身所飲百姓其害甚矣奇之也此法事

一 大德元年酒造所莊去身所飲百姓其害甚矣奇之也此法事

一 大德元年酒造所莊去身所飲百姓其害甚矣奇之也此法事

一 大德元年酒造所莊去身所飲百姓其害甚矣奇之也此法事

一 大德元年酒造所莊去身所飲百姓其害甚矣奇之也此法事

一 大德元年酒造所莊去身所飲百姓其害甚矣奇之也此法事

一 大德元年酒造所莊去身所飲百姓其害甚矣奇之也此法事

一 大德元年酒造所莊去身所飲百姓其害甚矣奇之也此法事

一 以石姓入限之...

一 耕以情入之...

一 用水川除...

一 住處...

一 於安...

一 所...

一 我...

一 我...

一 也...

一 今...

一 久...

一 二...

一 一...

一 人...

一 遠...

一 所...

竹塹城內官署及民房之役 少異其人 上皆以不討而外中其
用而無之者所合用場也 亦乃安其市街之條者

三條

一 竹塹城中之官人及商人市街之 竹塹城內官署及民房之役

一 竹塹城內官署及民房之役 少異其人 上皆以不討而外中其

一 竹塹城內官署及民房之役 少異其人 上皆以不討而外中其

一 竹塹城內官署及民房之役 少異其人 上皆以不討而外中其

一 竹塹城內官署及民房之役 少異其人 上皆以不討而外中其

一 竹塹城內官署及民房之役 少異其人 上皆以不討而外中其

一 竹塹城內官署及民房之役 少異其人 上皆以不討而外中其

一 竹塹城內官署及民房之役 少異其人 上皆以不討而外中其

一 竹塹城內官署及民房之役 少異其人 上皆以不討而外中其

一 竹塹城內官署及民房之役 少異其人 上皆以不討而外中其

一 竹塹城內官署及民房之役 少異其人 上皆以不討而外中其

一 竹塹城內官署及民房之役 少異其人 上皆以不討而外中其

一 竹塹城內官署及民房之役 少異其人 上皆以不討而外中其

一 竹塹城內官署及民房之役 少異其人 上皆以不討而外中其

万治元
二月十六日

利波部
十村中

一川西諸事十分相改中刻公事人遠くある事の中にておれ
申すも人数多寡合揃ふ事の中にて氷尺申部と利波と
此の合に作事の上事人よりおれおれおれおれおれおれ
下りておれおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ

万治元
剛曆四年四月

田中村
岩泉村
市右衛門
戸出村
又右衛門

五光村
次高田所
多田村
次高田所
下高田村
順高田
大白石村
三高田所
中島村
宅助
二高田
又高田

今夏嫁娶おれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ
自一強三人宛指代銀子目録と通指条おれおれおれおれ

万治元 七月廿八日 徳利所下

仙傳諸君前し
御殿内膳し
山本清三郎し
仙傳田助古し
平見小右衛し
山本又四郎し
白田信吉し

布市村原内江上村と右の殿村田原村田中村と之の

泉村市原と之九村市田原と之和村と右の陣場と村
宅町と桑村原と白石村と右の性田村と之
八市村と右の法住田村と之田原村と之
能市村と右の栗原村と之右の大谷村と之
三古

右 加賀守様御祝言相調り為候事者一様

宛目原と通達被書候所候事候と之

万治元

七月廿八日

今在民所
奥村岡崎

う招致し
十月十七日

古より十村あり中獨り其方より後者此に地所切し村
此に山百姓おん情悪ふ不成娘に之に其方より切し
此に山百姓おん情悪ふ不成娘に之に其方より切し
此に山百姓おん情悪ふ不成娘に之に其方より切し

十月十七日

白木村
二塚村
五ヶ所
五ヶ所

白木村
五ヶ所
五ヶ所
五ヶ所

中納言様所折書に為成に統共所部中一百姓大に重
難者故其子と娘も各に在れども其子と娘も各に在れども
其子と娘も各に在れども其子と娘も各に在れども其子と
其子と娘も各に在れども其子と娘も各に在れども其子と
其子と娘も各に在れども其子と娘も各に在れども其子と

能く後より各所へ往て付め初を好意にて
万治元
十月廿六日
川西
十村中

内服積

田村村中

足人

一 所分國中仕立金 申納言様へ作付る通ふも此迄
名く様、相守收納米所納入給へ知れ、各所納所仕立
一 百姓中各所の耕地お情をてある村、目換水換川原おて前
通具てお付り、百姓の内お知悉者あるてお知悉十村、

丁中二事

一 仙倉お前通所貸て成事

右之通被 作付系利波中、此は扶持一百姓十村

并村所買百姓、此は各所後所貸て書付て取ては

長崎

万治元

十月廿八日

奥村岡備

津田玄番

前田對馬

小幡子内

横山左衛門

何新物古物

定書之事

一 本年江戸は豊稔の年なるに因りて是四千八百餘石の
 幸方流あり左に割符の儀申付申付諸百姓
 と致し及中者方各役の家致に力し申付て此家
 致を改め時刻符に因りて申付て作付て申付
 此下申付て及中者方申付て申付て申付て申付

改帳局に記申付中一人是并役の就割符に次りて

一 高島郡石の上者持百姓の事申付て申付て申付

一同拾石拾九石迄の言持百姓の事申付て申付て申付

一同拾石拾九石迄の言持百姓の事申付て申付て申付

一 是計九斗迄の言持百姓の事申付て申付て申付

一 是計九斗迄の言持百姓の事申付て申付て申付

一 是計九斗迄の言持百姓の事申付て申付て申付

如書

一 是計九斗迄の言持百姓の事申付て申付て申付

者

為りおし言役にお定所へ分は式分役にてお定る

一市郡申役におしお所へ事九役へ成るなり上申

下押入云分役にてお定る

一今石新域を端井役にてお所へ役へ役へお所へ

格別におしお所へ上申下押入云分役にてお定る

一土地百姓ハテお除る

一寺社内派治士大派川桶屋ひものや高持氏殿内

古更進を百姓ハテお除る

右派におしお所へお所へお所へお所へお所へお所へ

合在し我能申お所へお所へお所へお所へお所へ

事におしお所へお所へお所へお所へお所へ

中お所へお所へお所へお所へお所へ

利波能申お所へお所へお所へお所へお所へ

お所へお所へお所へお所へお所へ

お所へお所へお所へお所へお所へ

明治三年十一月

利波能申お所へ

家言五千或拾三或七或八拾或二有卷人武安公屋宛

一六四拾之人

利改能去有

字數百五

拾四

城ヶ端所

或拾或

今名竊所

口五拾九或三

六拾六

福光組

口四拾九或九

五拾七

田中組

口六拾三或六

八拾七

浅地組

口八拾或

一拾三

江田組

口五拾五或

七拾八

東保組

口四拾三或七

五拾七

上原組

口七拾五或

九拾六

金屋東江組

口六拾三或四

七拾九

十市組

右名明曆四年三月江之人子刻符

五拾五改

明曆四年極月廿六日

書

意見

一 去年當年在所之耕他換名之所方之其止我本
山其の所を年々其の酒他に改に之る系能て改系
良懷に外名酒之所と又ハ諸國在之所と其近例年
に半分當年末年に之他之并新親の酒を一切の
を停止し其お改直す其一所に給へ所代官に為成
之自然密多他少取らハ之新へ所應る所と
其と他を去るるやと之に作れ向端
酒をハ之り罪料と事

一 耕他換名之所に百姓に困窮に留けし不其外取ら
念仕直さる事

一 従先年以來 作せし對土氏不其成此分差又他を不
換名所中操年貢令難にハ可為曲と事

一 在在所之耕為所なる場年內にかりをいし其改
まかやうと事

一 庶務お是中なる——向端取来りハ所あると為
る事

右に條しるるなりなり者也

戊子十二月

公孫諸君の所居に居て法に

教役方所用之吏

一九月晦日夜話山本清三郎及分稻積丹役成作上り得る中村
久越様市奉行と稻積丹と交支不及中上役根取三万交分は爲
作出の稻積丹任事に格別と分は作付
右に通達し仰及は作付

一冒役

是年分七人系止五分先八人系分是也

一權役

外權役是年分七人先權役是年分五人
但權役是年分七人外權役是年分五人引水なり

一破積銀

是年分是役番銀主事役三番銀九役
但權役是年分三月主役三月主役四月九役

一新銀

是年分是役是年分九役

一借銀

他領分中分九役即領分中分九役
在任事則借銀主事分中分九役教役五人分
是年分是役是年分九役

一費銀

他領分費中分三月是役四月九役中領分
費中分是年分費主事退任費主事役退任上事

一賞銀

他領分賞中分是年分是役是年分九役即領分
分賞中分是年分是役退任

大沢村内記中江村三戸の相神村海六松屋と合会勘定所を世合
中江村は旧村より各戸に分ち改札而性も成後年がたに
甲乙換置するも市郡依り姓手前氏に宜浦新威人多と指す者
いふ言流を建一教迄之を經て富貴を蒙る又、市郡因り姓を
上書裏心外知事仕若し多きもの名及て通じ上免手の上高に就
先年より市郡公領地或市給人等々免免と平抱取免免に就
修月于其上免三ヶ國市手仍、流十村より一日の間、以拾子村
能此立毛身立其極に得て申く、麻持多き事、自抗三列、義唐四、
之今より人、城成下姓するも、之市郡より田中村、田見、田、父、母、市
中江、成程之市郡中、通後年より市郡、換置するも、事、心、定、
才一旗後年より市郡、成、市郡、越中村水郡、能、力、以、事、終、与、之、

村の地を考へ得た地目より宜免安う又奥郡ハ才一地廣其上陸師
 山方獵祿未仕得ハ後派多敵テ至威又越中礮波郡寄谷ハ後
 年ニ至龍王ハ仕ハ今多此ノ高冬至威ハ又因郡千保川
 助ハ庄川入川仕得ク而田地古換其上ニ高是瑞龍寺而境内
 上川怪思石柳瀬川ニ外而中常請毎年ハ作付ハ成終ハ
 庄川東ハ寄一ノハ我ハ千保川ハ助連ニ新屋生々ハ可仕ニ外宜
 免ハ成ハ村ハ田地荒出ハ川助連ハ外而姓宜ハ一ノハ成ハ礮波郡
 張凡ハ口歌而姓宜ハ一ノハ成ハ事一

一新川穀、清三郎、後數年富山兼新、大村、任宅、以波、新、新、完
多、中、乃、甘、干、上、市、穀、夏、秋、茂、村、追、以、波、上、同、宜、不、不、依、何、時、
上、言、上、先、中、乃、甘、干、上、市、穀、夏、秋、茂、村、追、以、波、上、同、宜、不、不、依、何、時、

一加列能更欲石河郡以西郡地授之相見中以後之而姓宜矣者
少之田方近之而授之能矣之任第一之郡能更欲而而欲之
國之福也中代之言也而姓裏之也我之江恨之也我彈守操
而欲之及末之上免之也沙之字之得之能之也里方而降之也
水溢不兆之任之也

一、糶米村庄庄主馬中郎申稱下如南北石川に水取谷沢近在板
先年不_レ年中申渡方而世より新ぬか葉行本而七外不用
而之五歩收他免免_レ家り込明曆四年小松寺御念所割申渡
此等付別申渡人小長久々之中由書上成_レ更と公平均
免_二此等付_一余款分いふ免々成り尤下免々村もいふ村續款
免引こあめり得た余款分いふ免々こり上の曆二年の上免々別

手元川端方町市組迄手元市本町東川部解由度十村迄
毎町一上免主自覚書化小松市務止上信印歩三歩有る事
は是下上免解由度迄は作下相以自下上免主奉應
市意あるは方町迄は免に歩下二六歩七歩免手元上信
勘解由度十村市本町市組迄は押形組田井組園上組
上免多由中

[illegible]

内膳及御前等並其下諸下等諸口より一人は成中の
一形部中より先刻々各々諸事一宗をなせしめて中小等一親より西
白之節より通河原三ヶ所之事後くも年におきて之より姓下人百姓
に至る方々皆々各々我より沙弥新川郡各段より通大川より室水
を用水にて耕作をすり水乾涸に甚妙に思ふに所田の水又二田
に成り成田の水も通河原より冷る事をいふ人々田中水
戸に水を留置水とすすも水も土地に之より山下より旱れ他郡
小勝より実入より砂地故米の産を乏しく上地唯土地薄くして三
段より内より地也山の下の田畑法三市度沙弥と船幾段見ゆと云ふ
忽ち免を封じ之より廣田より末より日長里より百人許を新免
と云ふ所法三市度新免村より三里より之より更なる二月より七月まで毎日

く、名土耕作情^新と入秋は追々北風吹下地敷二五年一乙
止中右ノ痛尾及他部ハ勝勢進メ大百姓或ハ皆百姓走リ百姓五
之沙那ノ言要是等終ニ以清帝復沙那ニ移ル所為抄發
時沙事新見也ハ一免區分ニ致中ノ凡人ノ及成否云々此ノ人
近江國山本村百姓ノ宣永十七年於天津磯妙院様上十七才
之北石出ノ曆始迄迄ノ沙加増有之旨拾壹石并十匁ノ皮
寄後事

一、形勢重中、各口皆守、若以攻計、則必取、至後年、沙為之虞、
心在沙路、此乃金成就、此後、沙路元年九月、晦日、沙路王、
十月、十二日、壬戌、金兵至、列于十村、左七、外沙城、上、若、不、強、中、視、
沙路、救、諸、將、各、死、守、以、久、抗、及、沙、使、之、保、後、內、睦、及、助、帝、

之書をみよむ教ありて後別々原ある年々進上入情
其勤り多し沙路沙路の石沙路増多三列十村石
取之影をかりし我れ七度八つ時分沙路去はた情に
玉暗夜しと此は我れ中より初日より書は成る書
写

今度中納言様沙路去はた沙路國中諸百姓沙路去はた
伊度内膳に御甘茶系上意を御守諸事御事村に内膳可
指系はより御事と得る意ありと

万治元年戊子月

今度民部

元新 印考中 少義

郡中諸百姓何事とていふ止義控者ありと

伊度内膳に御甘茶系上意を御守諸事御事村に内膳可

一 郡中耕作情入る我れ村に御事系上意御事村に内膳可

一 收納す 微妙院様御事 御事諸人少代とて御成

ふし納系す御事御事 御成收納事

一 郡中切とて用水川原系系御事御事御事御事御事

川内係系系御事御事御事御事御事御事御事御事

一 百姓御事御事御事御事御事御事御事御事御事御事

一 此等物多不及此等各等子一の等一更

一 此等物多不及此等各等子一の等一更

成三月七日

万治元年也

前田對馬

津田玄香

奥村周播

今村民部

前田對馬

石見縣

里見七郎

人

一 大石寺 ハニタリグイセウ 寺名只存其共ニ子石以下ニ者所持仕る等

一 荻野寺 荻野寺 銭執事并天の銅張の皮金に三厘四方所停

一 嫁下子道具 別冊ハ執事ノ子ノ子ニ是年廿二歳ニ至ル 外盤折校箱長持衣櫛ニ此等餘可也

一 其用附し長持衣櫛拾棒系物拾下し外所停止

一 中隠年忌三日分長法事所用ニ事

一 一節ノ諸勝負所停止ニ事

一 一因女皆所停止ニ事

一 一此等物多不及此等各等子一の等一更

一世をいふにふとありていせに成り止る事

一 家産金銀貨物其外不慮分限花石廉成他事
有るにない但仕裁に他事ハ各別ニ事

一 下としに刀柄鞘かけて三尺寸脇持式人寸ハ長きを
指中するに付年鞘絞鞘大端角鋸其外ハ各別
氣を握仕る事

一 大抵付大利^{スリ}下ハ整頓せしめ停止ニ事

一月一度に月方ハ内批物とす
一月一度に月方ハ内批物とす
一月一度に月方ハ内批物とす

右條に不依誰にお令違犯ハ防遏し將重曲云々ハ依付
道料に後ハ向後御用於ニ成、つる事取決ハ依付
月違少可仕る事ハ向後御用於ニ成、つる事取決ハ依付

師の家申侍ト、并所人百姓衣取ニ事

一 不依大身小身銭徒纏綿平為羽二重之并衣物ハ社
和藏袴上帯ト等ハ不依中候神録ホ、主近一切是等
ニ事但奥袴袴相成ニ羽藏ハ袴、主近一切是等
ニ事但奥袴袴相成ニ羽藏ハ袴、主近一切是等

一 淨服道々小性衣法禪人羽織赤唐おは教欠
し事并家中小性紗袴平袴奥袴相成る羽織
類是又法於欠し事

一 白刃又家中侍羽二重袴し并一切は各々用但主人とせ
相ハ各別し事

一 家々者服師再算用者細し并同新し事

一 弓法袍者細小袴布し外口新し事

一 小者申間草履布小袴し外口新し事

一 町人結紐し外口新し事

一 百姓細小袴し外口新し事

右由言々し事ハ武々年迄して堅帛停止しと仰せ有
兼而之持てさき未ハ古衣當者ハ新極不中と
年中武家宛々交可中弱なる 師意に止

万治二

亥

正月朔日

今枝氏親

奥村河内

本多出房

長九郎古馬氏
横山古馬氏
前田古馬氏
奥村因幡氏
小幡玄内氏
津田玄吉氏

云々

一云々國在、か有公人共数多自是、他云々云々云々云々

一及一村切、人教を改十村并村肝煎、情状兩、記述云々云々
編りて仕事

一於他云々市家中、外他云々云々云々、及親兄弟一云々方、
云々云々云々云々云々

一伊勢桑宮本願寺系譜、云々及十村、及吟味、云々云々
以云々云々云々云々、及云々云々、及云々云々、及云々云々
是云々編り肝煎、云々云々

大云々云々云々云々、及云々云々云々

云々

云々月二日

津田玄吉

奥村周情

伊底内膳后

兌

一 榮格、子に事

一、子孝子之

一六五

一糸子事

一
蠟
子
事

一
端
、
、
子

一
條
、
事

右の諸君、不才、在る百姓中、一銀を以て、
下高砂、法不仕、夫、述、可、所、對、る、所、奥、因、情、度、
津、玄、著、度、に、作、後、に、系、系、如、此、に、情、其、を、所、飛、中、

五月二十日

菊池玄子

何處內服

里月七古與張

民始曰富

出定云云

半回右系

山本清市

雲土古之懷

石
子
之
傷
痕

子獨長古海州

張中へ及不依何事等用高下お達可之松島事

一耕代情^ナ根^ニ十村^ノ所^ノ費^ナ并^ニ小^ノ百姓^ノ中^ニ一^ノ市^ノ反^ノ諸^ノ
 臨^ニ下^ノ代^ノ在^ニ不^レを^レ与^フ納^ル所^ノ在^ニ十^ノ村^ノ所^ノ費^ナと^レ評^ス伝^ス根^ニ

一草高に搦紙を紙中に付其の口合に十村方一に集十村書付、
紙より裏書より銀を以て後至紙を用拂ひて
重る方と異うたは紙に仕事

一、張中切回用水除并道橋換之所者ハ其用

一、用水川除不用、我木在江道、橋かけ、此、我木林、木
 本、之、間、十、村、切、斗、之、歌、有、り、表、中、以、多、一、山、有、り、方、が
 更、之、下、水、後、子、先、之、事、以、人、有、り、時、ハ、其、有、り、人、と、歌、有、り、
 書、付、之、在、我、木、之、在、法、々、々、一、一、ト、ナ、ル、人、是、并、用、又、木、林、
 本、之、為、不、成、橋、之、分、ハ、歌、有、り、歌、有、り、我、木、之、お、洞、附、り、世、還、
 所、道、橋、修、治、不、用、泥、ハ、石、料、歌、有、り、石、段、事、一、

一、市石姓、及第、堪、卜、考、括、畧、次、尔、厥、总、于、付、

一 在こに諸勅進令停止を外費成敗多しゆに付事
 一新罷任迄と申百姓にて其百姓付の合と十村自書致す
 一 表事ヲ加算用場は、按是次ノ下度事
 一 檢地ヲ乞フ百姓にて其、郡奉行に越振より居る者ハ更人ト云々
 中事

一 他國に系い男と云、彼頃味先、居る者ハ更人ト云々
 越中按太正持に留る郡奉行、追書下事
 一 百姓地お討る地子、お取し、後、前為勝子次事
 一 百姓中事、いふ通にて、去、我、本、と、し、る、と、い、合、と、十、村、お、書、

十村お付、郡奉行、表書お付、方々文、下事
 右被 仰、出、返、相違方、召、取、者、之

可治武年一六月初日

今按民部
 津田玄蕃
 奥村周膳
 お田討馬

郡奉行

在、檢地、定

一 用水に代り、いふ、二、檢、除、但、に、按、多、い、て、除、下、る、事

一百姓所居を廻りて外に敷地を分ちて廣き道を開き石橋
を架けし隙に付事

一桑柘菜木麻苧の菜を根田成し事

一粟稗蕎麥大豆小豆麦芋菜種菰白ハ田に植へて村

に於て紙の中を爲し是を「味」に於て極事

一田地に双方の百姓に於て紙の中を植へて是を「味」に於て極事

付事

一川に於て水不納し一所に於て田地に於て是を「味」に於て極
地に於て事

一極地を於て於て紙の中を植へて是を「味」に於て極事

付事

右被 作出の通相違を以て事

印

今迄武家六月朔日

今迄民部

津田玄蕃

奥村因幡

前田對馬

合記

歸算用書

三ヶ國所諾米

所算用方と刻毎日乾石が相^法映八の区可算用
多し別ハカる補事

一諸代官算用仕列在る言揚成保平性引合と違動定
一見立捨地を中車と書くと改相決早束と書かざると
川言川久見と捨地を以て龍文と取算用場を極言
お成代安と書付て事

一井田久米捨川改お決對する同情玄情民能中
つお極事

一納所系其外上り浪定し月を裁りて寄寄七し加利是る取
但新し取寄し後ハ各別と事付り妻秋ま銀め取し
百姓と捨地次中とる上事

一上り知裁申ハ公儀高曲置所石川河小能員取ハお村を
羽喰之無^消ハお井田古能束村を置與與取ハお寄
代友中付と捨地取納事

一所捨地方切米言古^行と下りて早束と下り所
そる

一所算付極月咄同近し所り附ハ所算近し
二月

期りかき中間お事

一 席を就ては下者、胆年妻夫銀分て收付付死者人妻
又銀六日毎に以てある其分てお事

一 席を就ては八拜口米し内式拜席代をこて下張に六拜張人
と下事

一 銀を分て分米を拜式拜席代用(達)るる不足はいさゝか
とけ立其上を以て捨て下事

一 席を就官算用(達)る百姓が一收通席土を算に上金銀
米し分てある其分てと下取てお事

一 土佐堂米相係次子と承代を算用て遠事

一 席を就其一所相係出店を以て調代銀子席を算する
一 他國米算并脇算の中なるお事

一 席を調米を就本能所にてと候て至七月越ては定算
とあるお事

一 席を納米を就に算米を以て以て借付てお事

一 小算用の上よりと對意并換お祈りなるお諸事
上よりと候儀遠寄仕るおは但無理成候中付りおふ
お下と對る同様と書きたりてお事

一用前各々者分用場と系間より分り用所お所にて
早速と玉賜事

右社 作書通相違有る事

明治元年六月朔日

今枝氏部

津田玄吉

奥村因幡

前田昌馬

主役

分用場

他國に古傳の著書小者さうと取二月以後相對を眼を
そし師玉にお返しとて石造の時より文状之人抜き可
而し他國迄も組民が奉祈しけり及到事

一二月に於て後學師玉習人より書しけり内石造者
年々之強詔日多き用刻式和利増銀をかしと後
但三月が末ハ三和利なる情事

一定し本所お所内、今欠落ハ更人よりお送付味強銀
月割を以て并外将返詔中付し若し取送銀物あり
ハ過詔し内と石斗と人にて了

一他國より二月二日以後も佛國が奪う者明か
内々所傳て諸人應分際迄銀を付取逐うし
て引く事

一老人より捕らひて強盗銀物共々之を換ふ儀或
之人於捕らひ給取主人換ふ迄銀物并に銀を
かへす事

一給銀銀物并に以後とも三年以内老人諸人方
より一かしんて老人より諸人より逐う科人ハ
いふより教官に付事

一在成二石仕る被 作を刻る人より前より之を
いふめ何れし理運とるといふと事公人より成
或田島あれ左に引て中より銀成仕合はて十村
肝煎す付銀有り流すといふ人より事又老人
非分を中不堪忍難成着尾に佛に事場
にふる事割場有りて事

一若し黒者被害仕及者といふ事場は罰て之指
但し中より成級付て不叶着尾者ハ和服を
おすに利ふ事場は指使を事場より折去

と云ふ事

一 師國進放つて世に百姓に事懽に成る事

一 欠る人南産に不あり下馬所を以て成る事

一 欠る人南産に不あり下馬所を以て成る事

一 欠る人南産に不あり下馬所を以て成る事

子見方よりある事

一 欠る人南産に不あり下馬所を以て成る事

一 欠る人南産に不あり下馬所を以て成る事

一 欠る人南産に不あり下馬所を以て成る事

右條より作せし通を成る事

万治元年六月朔日

今校民部

津田玄米田

奥村因幡

前田野馬

金沢

乙事懽

師家申す事公人欠る人未決定なり

と云ふ事各々許す百姓申す成る事

忍し諍し

万葉式

七月七日

横山右近

前田七右衛門

菊池大守

金中林七右衛門 津田右京

松田七右衛門 山本清三郎

一、米銀其、是、米、子、切、也、不、成、振、之、仕、自、然、子、

切、也、仕、る、不、叶、首、尾、之、治、子、上、下、中、之、所、之、お

り、

一、目、押、米、浪、子、拂、仕、大、米、を、拂、大、切、也、別、裁、

万葉式

万葉式

十月二日

万葉式

万葉式

万葉式

万葉式

一、昔、年、所、國、他、大、豆、稗、就、多、一、宿、一、る、借、持、其、并、在、

之、能、後、り、所、所、國、他、由、大、豆、稗、也、中、後、而、停、止、

一、而、年、の、斗、年、十、月、迄、自、分、に、用、所、外、の、利、潤、大、豆、稗、

費、金、仕、後、由、停、止、

沛代官高沛清書

今夏秋之間雨水方多而代官身之清
悟乃裁此佈曰采

沛之義損沛用之義故事情文亦之沛新仕所處以上

萬治元年九月

川西古道人
十打中人

傳田右京左金殿車馬

萬治元年分年羽豐年拂員示

功之貴

一
志
名
欠
承
志
升
六
月

一日
日
喜升子
七月

一
月

日
或
升

八
月
九
月

一
日
口
羅
升
十
月

孝成公

大工の用事

萬治元年八月十日

太通師家用場
作虫

長柄山人三人市部甲一より後十村中一の市部後ハ終
市定より市部多と案五月中ハ所居多ハ終
の市部後ハ田部ハ所居多ハ終

万治三年
子四月廿六日

市部用場

氏部
子部

市部ハ市部ハ百姓居其外田畑之内ハ地部ハ市
部ハ市部ハ百姓居其外田畑之内ハ地部ハ市
部ハ市部ハ百姓居其外田畑之内ハ地部ハ市

万治三年

子四月廿六日

市部用場

氏部
子部
津田右京及
山部
津田右京及
子部

市部ハ市部ハ百姓居其外田畑之内ハ地部ハ市
部ハ市部ハ百姓居其外田畑之内ハ地部ハ市

市部

十月本二日

津田右京
金成良石

金成長石齋

利涉眾中眾水之

十打

沖船中諸百姓田地之內兼雇屋敷。但此松林之外何來より
 此木の落百姓等も此方之仕方有る。此方有る苗を
 此方より取られ下百姓中へ落し、此方より取られ

萬曆三年三月朔

津田右象版

金瓶梅

利波十村
新永十村
張兒十村

村十水村

張之十村

名交中を以て依る所は陛下百姓の所也
 牛木而に定む内は植中を以て不儀我は植苗を以て
 師多田用場は之に相判り山を以て之に後を以て百姓
 勝も次子に伐を以て知は作おに不儀我は向後市指
 多しと右に通す中を以て之と

百法三

三月十一

伊藤内膳

田助右

五合

平園小左丞

田中村多々福光村宗右衛門地村新左衛門丹波所加々橋金を在
 村長古く東條村次郎を橋上原村三平を橋内河村孫仙白石村
 三平樂人下条村頼多福光村次郎古く土黒村古く在佛生寺村隔
 河五里村多々加納村古くを橋上原村飛龍寺市村原内
 河上村三平古く殿村三平古く自下村古く古く小村他を橋
 河飛龍村宗右衛門里河村古く河上原村加々橋

右何れは故に之より下判飛龍にて古くは之より

人

一五千俵

小雲

一五万俵

玄腰

一五万俵

高田

一五万俵

多津

一五万俵

七尾

一五万俵

け分年一儀に之より下好し河原にて法に

一師分國中喰糧並修之及指師と商人お討を以て

一師分

一三ヶ寺一師分不喰糧並修之時にお糧を以て之より

一指師并商人お討他國に喰糧を以て之より之より

中分

一他玉に増おしむ夏以古師停止に誰に不寄師玉し
内る協商賣仕交者自中作如師中弱て有
しに似し

万治三
五月四日

師範用場

之氏初回富名所居
千秋表名所居
津田右一系居
金本林長右所居
山本清三所居
板垣孫三所居

一川西諸百姓其居屋敷並田地に方し休未百姓其勝手
次第に作如師範合所から作に方師範用場方
中未系一門に之に似し

万治三
五月廿二日

以條崎曲豆所

利波部
十村八人

寛政所中弱てく百姓居屋敷並外田畠に内植
屋敷本長 儀々古儀りる百姓勝手次第
この位但大寺成未系一門に之に似し

今、書上り申す

右、取、改、吟、味、果、事、記、自、分、成、人、書、身、仕、格、上、り、
所、名、儀、と、申、仲、以、仕、召、成、り、こ、こ

万法
二月 晦日

博田右京

金成右衛門

利勝歌師振持十村中

乃人

一、事、情、に、到、お、者、ハ、何、者、又、不、奇、組、既、七、許、人、係、事、と、名

二、者、以、乃、又、家、中、に、者、多、親、之、人、と、名、係、者、但、組、既、七、許、人、
親、之、人、に、對、し、中、に、改、ハ、者、何、と、事、

一、諸、事、を、之、所、名、十、倍、別、其、組、既、七、許、人、改、ハ、係、者、子、弟、
何、事、

一、死、罪、に、十、付、ハ、者、親、之、人、書、子、に、改、其、既、七、許、人、ハ、急、を、
改、一、門、書、付、ハ、連、二、と、ハ、事、云、ハ、其、之、人、所、ハ、百、姓、ハ、ハ、
事、以、ハ、改、之、ハ、事、書、子、限、を、以、ハ、脇、ハ、相、守、ハ、ハ、一、所、
越、ハ、事、

一、盜、錢、ハ、ハ、百、十、數、金、力、ハ、者、ハ、書、子、并、諸、道、ハ、其、改、許、人、

公早述之故編有公八之八
公編以名一五二事場に
下下新事一

一何言_ニ而_モ如捨_ル者其外_ニ死_ス人_ノ方_ニ刻_ヲを_レ所_ニ者大_ニ子_ノ
又他_ニ早_ニ死_ス中_ニ既_ニ判_ル垂_ニ細_ニ書_ス方_ヲを_レ公_ニ事_ノ情_ヲ以_テ相_ニ
以_テ事_ノ

一、盜賊へおとすべし。此路に引く事、均に不力なる者、
向ふ高座にあらざり。此路に引く事、均に不力なる者、
振子るべし。此路に引く事、均に不力なる者、

一、年六十以上拾年と限る所は他如く

若以拾子果成，仍後年亦不同。事

一百姓分年市子、百迄以若認、かぬ定十村肝葉口子名、

若欠所ふといひ其其人
以之乃其佐創鑑年

三
者
各
別
に
在
る

一、李奉公之欠店列支人、日前改吟味、給銀一兩、其
年市々、割込銀、とせ、勘外に、諸人、可、取、銀、とせ、

寸厚一
給銀五
石中分
八其
不
人代
流
請
公
事

一向後百姓分はれず孰れも爲成相對を以て舊代極者
車公人孰れも人其其も車はれず孰れも爲成相對を以て舊代極者

一市子居者及控年下仕て諸人無しゐるも苦しむるが故に但
若黨以上親類に成者ハ右年數の内にも諸人無し
不苦事

一舊代并右に通諸人無しゐる者欠る所近にありし親
類ハ恒重其ふ諸親類ハあつて改吟味事

一寺公ハ縁起ヲ取て死去者并無有故を考て近頃有
りあり

一就宿并盗一取改欠る所ハ刻限ハ定てとて諸人ハ不
可違者ハ罰主つてある事

一一人用所ハ由梅座云賞物ハ以多しと欠る所其者ハ控又
考しゐる人ハ手取多しとて人取らるゝ但考れ者ハ取
る一相違る人ハ欠る中ハ近におゐる者別事

一盗物償ふ諸人無しゐるハ勿論必定償はね換とる一
諸人ハ近頃て盗物償はねとておは但本主と交へおゐてハ
本銀を以てある事

一盗物振賣ハ賞金宿本不守て御不念し族より賞金
を換必定し宿本不守て御不念し族より賞金
但本主賞金返し改てある本取事

郡内風俗如こ、云事場か會一狀、源口寺社
方所方因並し事

一云事場に取上り、願所道具おの會、所拂代、源所道
心持、如こ云事場、者共か、奥書會、所押切、者、道、科
事、行、に、て、候、事

一云科銀人、招、如、云事場、か、會、所、止、状、と、源、と、事

一願所、浪、し、り、云、貴、目、宛、云、事、場、云、義、事、行、云、事、止

云事、し、用、所、と、事、中、事

右、通、子、お、違、様、と、可、裁、許、名、也

万治三

子卯

七月十三日

云事場

云事場、所、定、書、源、平、と、名、就、は、作、如、則、何、と、事
云、事、場、中、改、義、云、り、候、と、急、交、と、事、解、

為、所

万治三

八月六日

菊池大子

前田七郎多信

横山右近

信、如、門、後、様、源、田、助、右、様

津田、右、様

下



至徳三年十月十六日 師算用場下

津田右京殿

金東林寺古殿殿

大工師等共々交じり 師出立師算用場かき紙返し身内等官
 うし弱形昇仕交との書付也 いかん紙返し方へあり書付
 此師算入十年後書付迄をい紙お改をいふと

十月十八日

千秋寺殿
 氏親印と爲

石川 殿下村中

一而後師算中用あり川原水卜第高百石人三拾人流
 水卜師等も残取は師算用入是より後使仕等も紙
 不多と換り年之内年々師算清高身水卜をケ年
 内式交り水卜師等身内あり子九月廿師算用場
 師算等紙返しと紙返し 石川殿下村中

